

実践的インターンシップモデルの概要

～現場での長期プロジェクト参加型インターンシップの拡大に向けて～



産学連携による長期間かつ実プロジェクト参加型のインターンシップ(実践的インターンシップ)を実施するために必要なマッチングに関する運用モデルを紹介します。

複数企業が提供する実践的なインターンシップのテーマと複数大学の学生とのN対Nのマッチングを行うための要件などから、効果的かつ効率的にインターンシップを運営するための運用手順と、企業・大学・学生それぞれが成果を客観的に評価することが可能な利用書式(モデル評価指標)を用意しています。

詳細は、平成22年度「IT人材育成強化加速事業報告書

第8章 実践的インターンシップマッチング検証」をご覧ください。

[平成22年度実践的インターンシップマッチングの検証報告.pdf](#)

実践的インターンシップとは

学生の夏期休暇等を利用して1ヶ月以上の期間にわたって、企業実務に関わるインターンシップであり、教育(理論)と職業(実践)を結びつける貴重な機会となります。長期間の実習であるため、事前に企業のテーマと学生の学習目的やスキルとのマッチングを十分に行うことが大切です。

事前勉強や修了後の振り返りのステップを設けることで学習効果が高まります。

実践的インターンシップモデル

運用手順

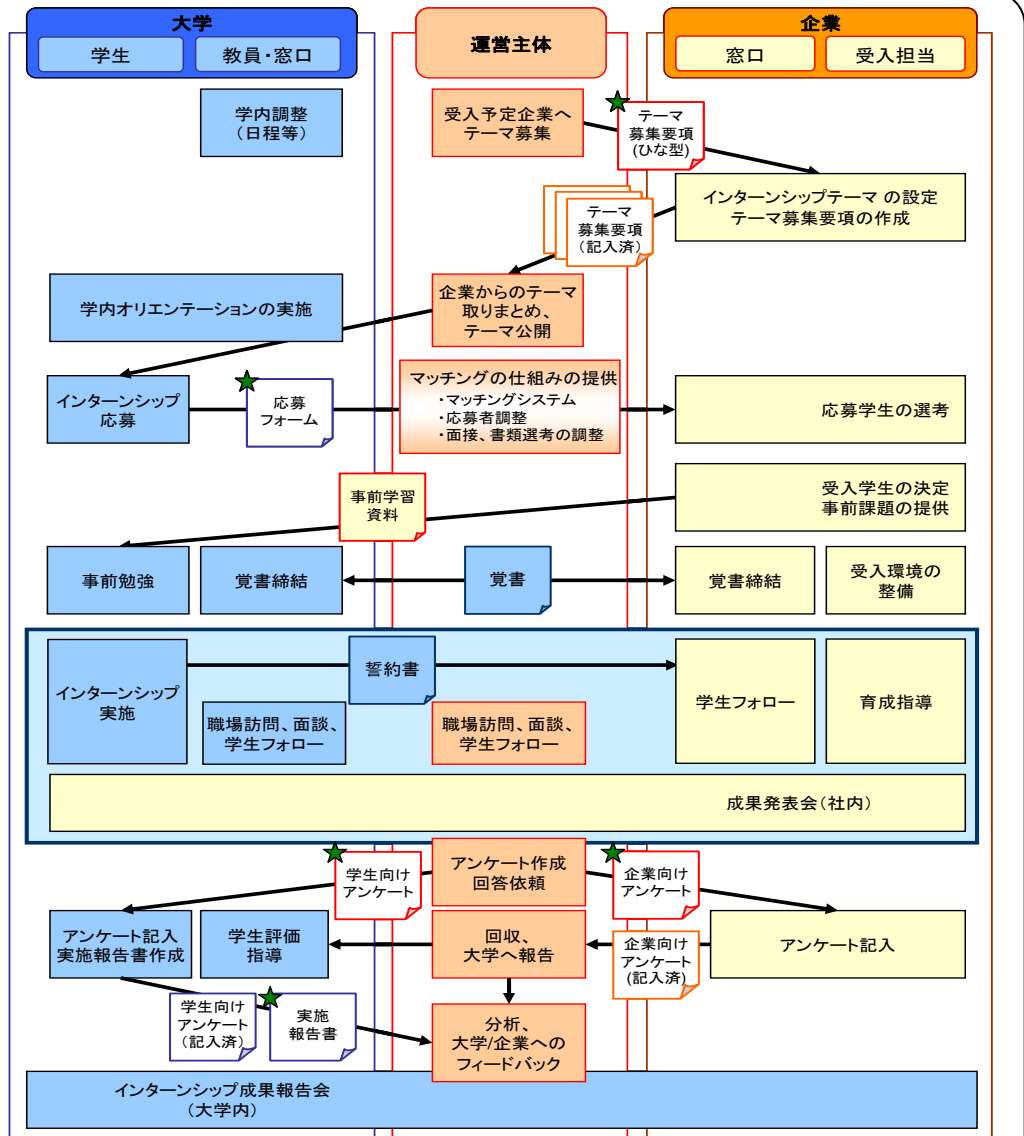
テーマの募集と公開

マッチング

実習準備

インターンシップ実施

フォローアップ



★は利用書式が提供されているもの

利用書式

実践的インターンシップ募集要項

企業名			
テーマ名			
概要 (実施を通じて身につけられる事)			
担当予定業務の種類で、該当するものを選んでください(複数回答可)	<input type="checkbox"/> 商用開発 <input type="checkbox"/> 商用の周辺開発 <input type="checkbox"/> プロトタイプ/ツール開発 <input type="checkbox"/> 技術や性能の評価・検証 <input type="checkbox"/> その他ご記入下さい	<input type="checkbox"/> 方法論、手法関連 <input type="checkbox"/> 調査・サーベイ <input type="checkbox"/> 研究開発 <input type="checkbox"/> 開発体験・演習	
ソフトウェア開発関連の場合、含まれる工程を選んでください(複数回答可)	<input type="checkbox"/> 企画プロセス <input type="checkbox"/> 要件定義プロセス <input type="checkbox"/> その他ご記入下さい	<input type="checkbox"/> 開発プロセス <input type="checkbox"/> 保守運用プロセス	
事前課題の予定内容			
実施に必要な経験やスキル	必須	希望	
	語学レベル(特に指定がある際の記入)	言語の種類	レベル
あると望ましい	条件を指定	条件	
	スキルを満たしていれば、学年は問わない		
	※自治体中の学生の応募可能/不可の状況は各自治体		

応募フォーム

- 希望テーマについて

テーマ名	
------	--
- あなたについて
- この企業/テーマを選んだ理由
- 応募条件に対する、あなたの経験や自己PR

企業向けアンケート

- 学生について

1-1	予め決めていた期間、インターンシップを実施することができたか?
1-6	指示、指導のもと、与えた業務を適切に遂行したか?
1-7	チームの一員として、積極的に業務に臨んでいたか?
- 指導内容について

2-1	業務遂行にあたり、与えて頂いた指導概要をお聞かせ下さい
-----	-----------------------------

インターンシップ実施報告書

実習先	
実習先部署名	
実習期間	
実習日数・総時間	日間(時間)
実習テーマ	
実習先指導体制	
実習内容概要	
実習成果およびインターンシップを終えての感想	

学生向けアンケート

Q1-1	全体の満足度
Q2-1	インターンシップ先選択理由
Q2-2	テーマ決定プロセスの満足度
Q2-3	テーマ決定後の企業窓口の対応
Q2-4	事前ガイダンス内容
Q3-1	企業の受入れ体制
Q3-2	実習内容の事前説明について
Q3-3	指導、打ち合わせの頻度

実践的インターンシップモデル適用事例

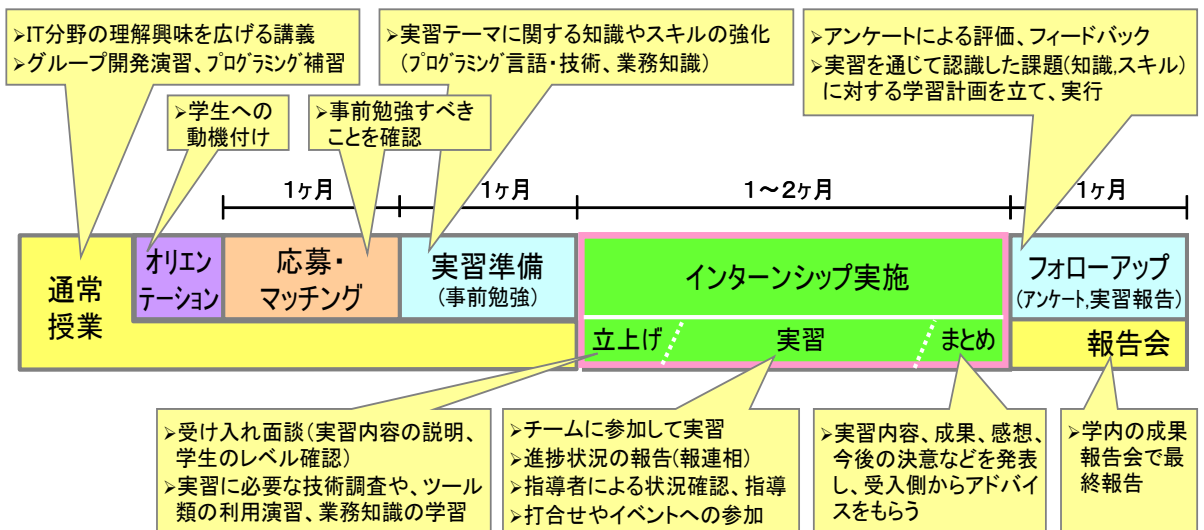
～高度情報通信人材育成支援センター(CeFIL)のインターンシップ運営～

平成22年度に実践的インターンシップモデルに沿って26社から提供された、94テーマの募集/マッチングを行い、7大学(*)、69名の学生が夏期休暇期間中に23の企業で実習を行いました。実習期間(実働)の平均は25日、最長で36日となっています。

(*)参加大学：筑波大学、九州大学、九州工業大学、愛媛大学、名古屋大学、福岡大学、宮崎大学

● 実践的インターンシップの運営

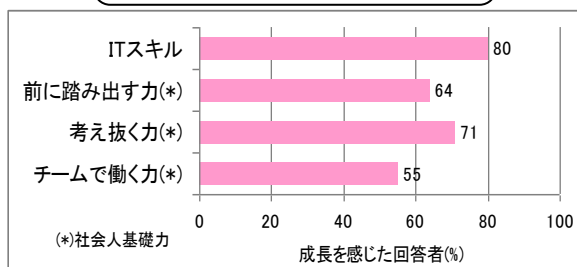
- 実践的インターンシップの運営には、大学、学生、企業、運営事務局の効率的な連携が必要であるため、実践的インターンシップモデルの運用手順書に沿って運営されました。
- CeFILでは実践的インターンシップの効果を高めるための学習プロセスを下図のように整理しています。



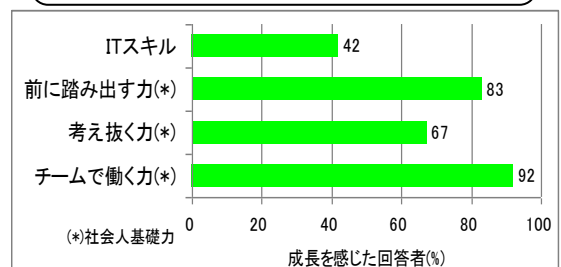
● 実践的インターンシップの評価

- 実践的インターンシップモデルの利用書式を用いたアンケートにより、実習の評価や運営の評価を行いました。
- 教育効果の面では、たとえば「成長したと感じるか?」という問いに対して、学生全員が「はい」、また全ての教員が「学生の成長を感じる」と回答しています。

実践的インターンシップによる成長(学生)



実践的インターンシップによる成長(大学教員から見て)



※高度情報通信人材育成支援センター(CeFIL) <http://www.cefil.jp/>

日本経団連の産学官連携による高度ICT人材育成支援活動の実行機能を引き継ぐ組織として平成21年7月に有志企業11社により設立された特定非営利活動法人。重点協力拠点(筑波大学、九州大学)への支援を続けるとともに、その成果をもとに産学官が結束した国家的取り組みへの拡大を目指している。

参加者の声 (平成22年度のインターンシップアンケート回答より)

学生

- ✓ あっという間の6週間で、とても有意義な時間を過ごすことができました。インターンシップを通じて、自分の不得意な点や改善しなければならない点に気づくことができました。今後は、気づいた点を生かし、頑張っていきたいと思います。
- ✓ 6週間という期間、システム開発を一通り実施できたことは今後の学習を行う上で大きな収穫となりました。大学での仕様書作成演習とは異なり、ひとつのシステムを構築するためにどのような事項や配慮が必要なのかを学ぶことができました。
- ✓ チーム開発ならではの、レビューの大事さや仕様書やソースコードの書き方に新たな気付きがありました。他の人に意図が伝わるような物を作ることは容易ではありませんでした。これからの学習を通じて、より分かりやすいものを作れるように精進していきたいと思います。
- ✓ 非常に実りの多いインターンシップでした。説明会の時点では面倒臭さや自身の能力不足への不安があり、参加することに意欲的ではなかったのですが、インターンを修了した今ではその本当の良さを身をもって実感できました。

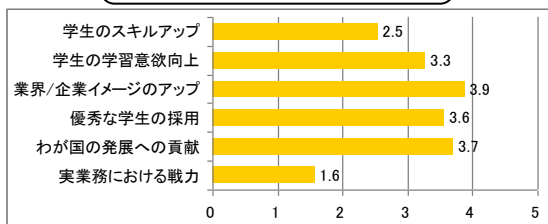
大学教員

- ✓ 自身の研究活動と企業の業務との関連が明確になり、研究活動に対して積極性が増したと思います。また、論理的な説明や計画的な行動を意識するようになったと感じます。
- ✓ 社会情勢や技術動向、人間観察に興味を示すようになったと感じます。まだ、はっきりとは見えませんが、そこから新たに勉強したいと思うものを自発的に見つけ出すのではないかと期待感をもっています。
- ✓ 学会等へ参加することへの興味が増しているように思います。インターンシップを通じて経験できた人的交流が一つの動機になっているのではないのでしょうか。

企業

- ✓ マッチング面談を実施することは、学生、企業共に事前準備、事前確認に非常に有意義であったと考えております。
- ✓ 学生が事前課題を十分に実施していたことで立ち上がり早く、スムーズに作業を行ってもらうことができました。
- ✓ 受け入れ側の負担はあるものの、インターン受け入れを通じて指導経験を積むことは企業側の指導者・メンターの成長にも役立っています。

企業のインターンシップ受け入れ意義



実践的インターンシップで学生に求められる知識やスキル

